

子宮頸がん発見へ

県立医大・渡辺助教「恥ずかしさ軽減」

検診用パンツを開発

県立医大(福島市)の渡辺久美子助教は、

女性が子宮頸がん検診
などを受ける際の恥
ずかしさを軽減する
「検診用パンツ」を開



「検診用パンツ」の販売開始記者会見に臨んだ渡辺久美子助教(左)ら。県立医大提供

発した。特許出願中
で、今後、医療機関
での導入を進め、検診
の受診率向上を目指
す。
パンツは不織布製
で、色はピンクと青。
フリーサイズで、ヒモ
でウエストの調節も
できる。股の部分に切
り込みを入れ、着用し
たまま露出部を狭く
して検診を受けるこ
とができる。医療機
器販売会社の「日本
シーエイチシー」(東
京都)が製造販売し
た。

医大によると、婦人
科のがんの中でも、20
〜30代の若い女性で
子宮頸がんが増加して
いる。また、日本の20
〜69歳の女性の検診受
診率(2006年)は
24・5%で、米国(83
・5%)や英国(79
・4%)に比べ大幅に低
い。
医大産学官連携推進
の竹之下誠一本部長
は「検診用パンツの普
及で、検診受診率の向
上と、がんの早期発見
につながれば」と期待
する。これまで大腸検
査用のパンツはあった
が、婦人科検診用はな
く、今後、他の産婦人
科疾患の検査や泌尿
器科、人間ドックでの
活用にも広がってい
きたいという。

【横田香奈】